

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターうさぎ園			
○保護者評価実施期間	令和6年12月18日		～	令和7年2月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	168名	(回答者数)	87名
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～	令和7年2月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの課題に合わせた支援	・一人一人の子どもの課題に向き合い、各職種が専門性を発揮して必要な場合は連携を取りながら療育を進めている。	・一人一人の子どもの課題に焦点を当てた的確な療育を提供するため、個別療育を中心とし、言語聴覚士、作業療法士、保育士、公認心理師が連携を取りながら療育を進めている。
2	難聴児療育	・京都府下唯一の難聴児療育施設として、早期の療育が必要とされる難聴児については、待機なしで受け入れている。	・京都府立聾学校と連携し、府南部全体の難聴児の支援体制を構築している。 ・児童福祉センター診療所耳鼻科と連携するとともに、利用児の補聴器の調整や相談等を行っている。 ・0～2歳児のグループ療育の際には、保護者グループにおいて保護者同士の交流を図るなど、二ードに合わせた支援を行なっている。
3	保護者や事業所、子育て施設への支援	・保護者と療育中の子どもの様子や療育者の関わり方を共有するとともに、思いを丁寧に聞き取り、助言や保護者学習会、就学等に向けた情報提供を行っている。 ・地域の事業所、幼稚園、保育園等に対して施設の特性を生かして支援を行なっている。 ・実際に行っている支援の事例を、児童の支援を担当する方の参考としていただけるよう、公開講座を実施している。	・子どもが少しでも困らずに生活できるよう、保護者と一緒に考え、相談しながら療育を進めていく。 ・保護者学習会については、参加できなかった保護者へのフォローを工夫していく。 ・今後も、子育て施設等への支援を積極的に拡大していきたい。 ・公開講座については、対象を工夫するなどにより、効果的に開催していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園や幼稚園との交流など、地域の他の子どもとの交流	・個別療育が中心であるうさぎ園の療育の形では地域の他の子どもとの交流は難しい。	・何ができるかを今後検討していく。
2	情報発信	・ホームページやフェイスブックで情報発信を行っているが、うさぎ園の療育が必要な方に必要な情報が十分伝わっているとは言えない。	・既存のツールについての見直しや、新たな発信方法等について今後検討していく。